

# 『変える』

昨年、東京オリンピック・パラリンピック2020は、新型コロナウイルス感染症の影響により1年延期されました。私がこの原稿を執筆している6月末時点では、『東京オリンピック』は7月23日から8月8日まで、『東京パラリンピック』は8月24日から9月5日までの日程で開催されます。開催については賛否両論あり、大変な大会になりましたが、開催される以上、コロナ対策に万全を期していただき、その中でいろいろな立場の人に思いやりの心を忘れることなく、この一大イベントが大過なく閉幕することを祈っています。そして私たちは、各国の厳しい予選を勝ち抜いて出場された選手に温かいエールを送り、選手の心、技、パワーに触れ、感動をいただければと願っています。

既に皆さまもご存知のように、水泳の池江 璃花子選手は2019年2月に白血病を公表、それから約10カ月入院、厳しい治療に耐え、体重も15kg減りましたが、12月に退院すると昨年3月には練習を再開しました。8月の実戦復帰後は「第2の水泳人生」と位置づけ、努力に努力を重ね、辛くても、しんどくても努力は必ず報われると信じオリンピック日本代表の座を勝ち取られました。

このことだけでも感動と感激をいただくことができます。

オリンピック・パラリンピックでは、このようなことがすべての競技で見ることができます。感動、感激は私たちの心を癒し、パワーアップをさせてくれると信じています。

そこで、今回は「変える」ことについて述べてみます。

5月9日、まどかパーク多目的グラウンドで「有名プレイヤー等による陸上教室」が開催されました。講師に、

○朝原 宣治氏（陸上競技短距離でオリンピック4回出場）

○荒川 大輔氏（陸上競技走幅跳で世界陸上2回出場）

両氏を招き、市内中学校陸上部の2、3年生を対象に4時間にわたり心のこもった素晴らしい指導をいただきました。参加した中学生にとっては一生忘れることのできない一日になったでしょう。

私はスタンドからの参加でしたが、心に残る言葉がありました。

（朝原氏）

「今日、いろいろな考え方、練習方法、動作等を指導しましたが、その中で自身の心の中に残ったもの1つでいいから変えることができれば、次の大会で成長した姿が見ることができる。」

（荒川氏）

「スポーツは、姿勢、リズム、タイミングが大切。」

この両氏の指導を受けながら感じたことは、自分自身を変える勇気、壊す勇気、これをジャストタイミングで行えば成果が出るということを確認しました。

次の3名の方は、変えることにチャレンジして成果を出した人、チャレンジしている人です。

1.山縣 亮太選手

2021年6月 陸上競技男子100m 9秒95の日本記録樹立

2019年肺炎胸の病気、2020年右膝の故障で伸び悩み、苦しみ、2021年高橋大樹コーチに指導を仰ぎ、動きから変える大改革で成果を出した。

1.荒木 香織氏

スポーツ心理学 2019年ラグビーワールドカップでエディ・ジョンス監督からコーチを依頼され、チーム内の考え方を変え日本をベスト8に導いた。

1.鈴木 亜由子選手

2021年東京オリンピック女子マラソンに出場。レースを壊す勇気、変える勇気がないとオリンピックマラソンでは戦えないとチャレンジしている。

変えるということは大変難しいことですが、今できる小さなことから変えてみましょう。その先には明るい未来が待っていることを信じて生き抜きましょう。



(profile)

重松 森雄

(しげまつ もりお)

1940年6月21日生まれ。

福岡市早良区在住。

1965年に当時の世界最高記録を樹立。引退後は岩田屋、サニックス女子陸上部の監督を歴任し、現在は福岡のクラブチーム「ファーストドリームAC」の監督、大野城市総合体育館館長を務める。

# Step up

sports for all

vol. 50  
2021.8.1

発行:(公財)大野城市スポーツ協会 〒816-0902 大野城市乙金618-12  
TEL 503-9500 FAX 503-5546 <http://www.onojo-sports.or.jp>



令和3年度4月より大野城市体育協会は

大野城市スポーツ協会

に、名称変更しました。



名称変更記念事業 【大野城ば元気にするバイ!】  
令和3年5月1日



名称変更記念事業 有名プレイヤー等による陸上教室  
令和3年5月9日

名称変更記念事業として  
記念イベントが開催されました!